

第8回全国空手道指導者研修会



第8回全国空手道指導者研修会（主催＝日本武道館、全日本空手道連盟、全国高等学校体育連盟空手道専門部、全国中学校空手道連盟、後援＝スポーツ庁）は8月16～18日の3日間、東京・辰巳の日本空手道会館で、講師・助講師12名、参加者65名が集まって行われた。この研修会は平成24年度から完全実施された中学校武道必修化の充実に向け、日本全国で空手道を指導する中学校、高等学校の指導者を対象に、我が国固有の伝統と文化に立脚した研修会として実施され、教科体育「空手道」の理解を深め、空手道の授業指導法および専門的な知識・技術の充実を図り、もって中学校、高等学校空手道指導者の資質向上に資する目的で行われた。

■1日目（8月16日）

開講式では、はじめに笹川堯全日本空手道連盟会長が挨拶に立った。

「全国からお集まりいただきありがとうございます。空手道はオリンピック東京大会の正式種目となり、次期学習指導要領では空手道も含めて、すべての武道の名称が並列明記されます。今回ご参加の皆さん

には、本研修会で得た知識を活かして中学生に空手道の精神を教えていただきたい。組手は難しいかもしれませんが、形であればいくつになってもできます。全空連では現在、生涯武道としての健康空手の形を検討しているところです」

続いて、三藤芳生日本武道館常任理事・事務局長が主催者挨拶を行った。

「中学校武道必修化第1期は6年目に入りました。日本武道協会では『中学校武道必修化指導書（DVD付）』を作成し、本年6・7月に全国の中学校、都道府県市区町村教育委員会など、約15,000件に無償配布しました。仏を作って魂を入れる時期であります。また、東京オリンピックでは空手競技の実施が決まり、今、空手道には追い風が吹いています。日本武道館発行の月刊『武道』に『空手道の歴史と技法』が連載されていますので、ぜひ記事を読んで指導の参考にさせていただきたい」

次に、講師を代表して小山正辰講師が挨拶をした。「空手道は必修化による理解の深まりとともに全国各地で浸透してきました。今回も講師は全力で指導に当たりますので、皆さんも付いてきてください」

開講式終了後、栗原茂夫講師が「2020年東京五輪に向けた取組・中学校武道必修化について」と題して講義を行った。はじめに全日本空手道連盟の沿革を紹介した後、中学校武道必修化について概説した。その中で空手道の実施学校数に触れ、今後、1,000校で実施できるよう皆さんと力を合わせて頑張っていきたいとの発言があった。

続いて、日本武道協会発行の『中学校武道必修化指導書』付属DVDの武道編を全員で視聴し、その後、初心者と上級者に分かれて基本動作の指導が行われた。初心者班は日下修次講師が担当し、中学校空手道授業について解説した後、礼法（立礼、座礼）、基本技術（立ち方、受け、突き、蹴り）、基本形1の指導を行った。上級者班は小山講師が担当し、模擬授業を想定した3人1組の団体形（基本形2・3）でトーナメント形式の試合を行った。

■2日目（8月17日）

『中学校武道指導実践法』と題して中村武志助講師が講義を行った。はじめに空手道授業採用の現状に触れ、続いて学習指導要領の「内容の取扱い」について解説がなされた。特に平成33年度から完全実施される次期学習指導要領には空手道も含めて、すべての武道が明記されたことが、原文とともに紹介された。また、改訂のポイントとして、他者と対話したり協働しながら、新しいアイデアや納得解を形成させることや、「簡易な攻防」の中に課題を見つけ、課題解決の取組を工夫し、自己の考えを他者に伝えることが挙げられた。空手道授業としては、①武道とは②礼法③基本技④形（個人・団体）⑤約束組手という流れがスムーズであることが示された。安全指導としては授業以外で使ってはいけないことや、空手の技はそもそもすべて受けから始まることを伝えることが強調され、危機管理能力の育成として、受け身、正中線、間合いの指導が挙げられた。

大道場に移動して、井下佳織助講師の指揮で空手道の動きを取り入れた準備運動を行った。その後、石川周亨講師が、攻撃側は右中段順突き、防御側はそれを左下段受けで受けて、右中段逆突きで返す約束組手を指導した。その中で、安全に行うために必

ず攻撃側は「中段いきます」と声をかけ、防御側が「はい」と返事をしてから始めること、また、実際に攻防を展開する前に絶対に突きが届かない間合いを確認してから行うことを指導した。その後、6人1組となり、約束組手の判定試合を行った。参加者からは判定のたびに互いを称え合う拍手が起こった。

午後は再び初心者班と上級者班に分かれた。初心者班は石川講師の指導で基本形1を繰り返し稽古した。上級者班は体の力を抜くことをテーマに、月刊「武道」連載「空手道の歴史と技法」執筆者の和田光二氏が受け方、突き方について実技・解説を行った。特に受けは力ではなく、正しい形で受けることが大事であると強調した。また、形の動きの意味を考えながら打つことで味わいが出てくるとした。続いて、同じく執筆者の嘉手苺徹氏が「関節の緩め方、力の抜き方」について実践を交えた解説を行った。

日野一男講師による「空手道の指導を安全に行うために」の講義に移った。安全指導のためには立ち姿勢の悪くなっている今の子供たちの特徴を捉えることが大切であるとした。また、様々な具体例と判例を結びつけながら論を進め、結びに、必ず自分の義務を果たすことを伝えた。

石川講師は「空手道授業採用に向けた取組について」と題して講義を行った。はじめに空手を題材としたCM動画を流して、生徒への導入にあたって、このようなものを見せる方法もあるとした。その後、「①空手道授業を行う上でのメリット、デメリット②空手道授業採用に向けた働きかけ③空手道授業の工夫」の3つをテーマにグループディスカッションを行った。

■3日目（8月18日）

三たび初心者班と上級者班に分かれ、初心者班は基本動作の確認、団体形の判定試合を行った。上級者班は前日までの内容について質疑応答を行った。

閉講式では修了証を吉野喜信日本武道館振興部長が参加者代表の岡田満東京都江戸川区立瑞江中学校教諭に授与し、講師講評を小山講師が、主催者挨拶を日下修次全日本空手道連盟理事・事務局長が、それぞれ行い、全日程を終了した。